



Q 小学6年の息子が最近、よそよそしくなりました。

A 精神的な自立期です。「手離して心離さず」で見守りましょう。

高学年になると、友達との関係が生活のなかで大きなウエイトを占めています。友達との触れ合いが大切になり、秘密をもつようになるのは成長段階として当然ですし、その中に入つてこれらの人を嫌がるようになります。

勉強も「9歳の壁」といわれるよう、中学年の頃から難しく感じたり、友達と比較して劣等感をもつようになります。

入学した頃に比べて、感情もずいぶん豊かで複雑になります。良くも悪くも、親より友達との関係の比重が大きくなり、影響を受けるようになるのがこれから periods です。

● 「心の離乳期」

何でも話していた子供が、急

それに女子のグループは相互に独立して排他的になる傾向があります。2つのグループを掛け持ちすることはなく、その点、男子のグループのほうが緩いようです。

● 無心に聞く姿勢

親ができることの一つは、話の腰を折らずに無心に聞くことです。無心に聞くとは、「どうアドバイスしようか」と考える必要がなく、子供の問題を親の問題にすり替えない、親が解決しようとしていることです。まして指示や命令はなじみません。ときには「それでどう思つたの?」と、気持ちを引き出すよ

Q 母親を頼りがちな息子に、父親と接すれば?

A 子供さんと一緒に行動する機会をつくりましょ。

小学校までは母親とのつながりが強いのが普通です。「おまえが甘いから」と妻に言うまえ

に、子供との関わりを増やしてみましょう。魚釣りや登山など、お父さんの趣味に誘うのも

お母さんも子供をしっかりとハグしたら、お父さんに送り出しましょう。思春期には夫婦連携で子供に臨むことが大切です。

トラブルが起こりやすいのは、むしろ日頃仲良くしているグループの子供たち同士です。一緒に遊びに出かけたりするので、仲良くやっていると思うかもしれないが、本人は必ずしも楽しいと感じているとはかぎりません。

A 無心に話を聞き、解決は子供自身に任せましょ。

トラブルが起こりやすいのは、また、話している過程で自分がどう振る舞つたらいいか、思い至ることもあるでしょう。

思春期は、否応なく自分と向き合う時期です。孤独を感じることもあるでしょう。親が無心に聞くことで、子供は自分と向き合つようになります。

また一人でいるときは、エネルギーを貯める大切な時間です。読書などをして、「一人で過ごすのもいいものよ」と教えたり、興味あるイベントやボランティアなどに参加して、学校とはちがう人間関係があることを知らせたりするのもいいでしょう。

● ワンポイント・アドバイス

身体の変化に戸惑う子には、個人差、男女差があることを教えると不安が和らぎます。成長を素直に喜べるといいですね。

いいし、自転車の修理を一緒にしたりするのもいいのです。

「いまさら話すこともないし…」と言う人もいますが、会話をたくさんする必要はありません。そばで父親の存在感を見せればいいのです。

心理学でいう「グレートマザー」には、子供を慈しみ育む力と、子供を束縛し呑み込んでしまう力があります。精神的な乳離れをするには、グレートマザーと戦わなければならぬと言われます。そのときがお父さんの出番です。

自立したい気持ちと、まだだ甘えたい気持ちとの間を揺れ動き、少し不安定になることもあります。成長期の子供の心理を理解して、接してあげるといいでしょう。

Q 同じ女子グループの子と仲違いして悩んでいます。

によそよそしくなると、親は困惑するかもしれません。でも、これも成長の証しです。「心の離乳期」と受け止めて、少し離れて見守るようにしましょう。

男の子が中学生になると、母

親たちはよく、「話さなくなり、何を考えているのか分からない」と言います。自分の中のもう一人の自分が、客観的に自分を見ながら対話し、自分を見つめ直しているのです。

自立したい気持ちと、まだだ甘えたい気持ちとの間を揺れ動き、少し不安定になることもあります。成長期の子供の心理を理解して、接してあげるといいでしょう。